



くれ

964号
2023年9月19日
郵政産業労働者ユニオン
呉支部発行



←中国地本HPへ
PC・スマホ等から
この情報が閲覧可！



メールはこちら→

業務協業と損失歴史

ヤマトとの協業

10月1日から、16道県でクロネコゆうパケットの取扱いが開始される。広島県は24年4月から予定となっている。段階的な取扱いスタートとなるが、パケット追跡物は現在の2倍を配達する事になると想定されている。

「ネコポス」は、年間約4億個の実績がある。また、カタログやパンフレットなどの販促物などを主軸とした「クロネコDM便」は令和3年度に約8億通の実績だった。「クロネコDM便」は24年2月から全量引受を開

通称、赤バイク

大型の荷物配達には不向きだが、狭い路地も通られ、小型荷物の効率配達に欠かせない。



始する予定である。

余談ではあるが、DM便の前身であるクロネコメール便は、信書の混入による郵便法違反が問題となった。

受取人申告で、郵便法違反容疑となり、警察からの取り調べや、書類送検されたケースが複数回発生したからである。

配達事業者だけでなく、差出人も郵便法違反となる事が深刻な点であり、対策に苦慮していた。

結果、カタログ等に特化したDM便となった。

人員配置の不安

DM便や追跡物が増える事は明白であるが、内務体制は、既存労働力での対応を検討とある。

外務体制は、現在のリソースを最大限活用した上で、生産性を見極めて検討される。

郵便部数が減少傾向との記載もあり、増員対応に慎重な姿勢が見て取れる。

郵政Gの損失歴史

新たな収益を確保するとして、会社のこれまで経

営方針結果は以下の通り。日本通運と宅配事業を統合してできたJPエキスプレス。

統合の結果、累積損失は980億円となった。

初の海外展開として、豪物流トール社買収。

4003億円の特別損失を出し、トール社エクスプレス事業売却で特別損失

674億円を計上した。

最近では楽天グループとの業務提携で、850億円の特別損失を計上した。

2年前に事業提携したが、わずか2年で850億円の損失だ。

こういった失敗が株価に与えた影響を考慮すれば、損失額は計り知れない。

日本郵政は24年3月末までに、株式の10%、3千億円を上限に自社株

買いを行うと発表した。株価の水準は歴史的な株

高の恩恵を受けているとは言えない水準だ。

インボイス制度

10月1日からは、インボイス制度が始まります。正式名称を「適格請求書等保存方式」といいます。

この制度の目的は、取引における消費税額と消費

税率の把握です。

約4年前に消費税率引き上げで、10%が基本消費

税率となりましたが、食品

など一部商品は、軽減税率

8%が適用されます。2種類の税率が混在する為、税率税額を正確に把握する必要が生じました。制度のメリットとして、仕入税額控除や納税額の軽減、補助金の上乗せ、会計ソフト等に補助金などが挙げられます。

デメリットとして、登録の期間や請求書の更新の事務量増加だけでなく、納税免除事業者は課税事業者に変更が必要となります。

免除の場合を除き、インボイスが無ければ、仕入税額控除が受けられなくなり

ます。6年間は仕入控除に関して経過措置がありますが、取引先によつては、影響があると考えられます。

フリーランスなど、様々な働き方を政府が推奨した後、結果的に増

税や契約不利になり得る制度改正が行われる為、制度

に対する不信感を持つ声が上がっています。

消費者にとつても他人事でなく、商

品やサービスの値上げにも繋がり、

物価高に拍車がかかる懸念がありま

す。

水に感謝の声

今年の夏は連日、30度以上の真夏日、35度を超える猛暑日もある中、配達業務は続いている。

不要な外出を控える様に注意喚起され、それでも熱中症で搬送されたと連日報道されていた。

配達業務はその酷暑の中で行われる事が多く、熱中症のリスクは常にある。昨年引き続き、今年も職場で水が用意された。

暑さ対策として、一部は冷凍されている。

物価高で、自動販売機の商品は値段が高くなっており、これまで以上に買いくくなっている。

その為、社員からは非常に好評だ。

他にも、熱中症対策として、塩飴やタブレットも用意されている。

今後の予定

- 9月29日(火) 17:30~
第1回呉支部定期大会
ビューポートくれ
 - 10月10日(火) 17:00~
第1回呉支部執行委員会
支部事務所
- 次号は 10月 3日 予定